

らいてう没後50年・『青鞥』創刊110周年
 記念のつどい 今 生かそう らいてうのこころざし
 11月20日(土)午後 1時30分～4時15分(オンライン)

「墓調報告」

米田佐代子(平塚らいてうの会会長・らいてうの家館長)



1934年生まれ。女性史研究者。山梨県立女子短期大学教授退任後、平塚らいてうの会会長としてらいてうの家建設にあたる。総合女性史学会の代表委員を務め、生活者としての平和思想家・平塚らいてうの再発見、「女性がつくる平和世界」構想を問う。著書『平塚らいてう』(単著)、『平塚らいてう評論集』(共編)など。

おぼろけの会ニュース

発行
 平塚らいてうの会
 〒112-0002
 東京都文京区
 小石川
 5-10-20-5F
 TEL・FAX
 03-3818-8626

つどいにお招きする発言者のみなさん



奥村直史さん(らいてうの孫)

1945年東京・世田谷生まれ。早稲田大学文学部哲学科心理学専修卒業、2005年まで国立精神・神経センター国府台病院に心理療法師として勤務。著書『平塚らいてう―その思想と孫から見た素顔』(平凡社ライブラリー)2021年など。



北原みのりさん
 (ラブピースクラブ代表・シスターフッド出版社アジユマブックス代表・作家)

1970年生まれ。津田塾大学卒。日本女子大学院で教育心理学専攻。1996年フェミニズムの視点での女性向けセクシユアルプレジャーショップ『ラブピースクラブ』設立。「ポルノ被害と性暴力を考える会」理事、慰安婦問題日韓合意に反対する一般社団法人「希望のたね基金」理事など、女性の権利のために活動。

ビデオメッセージ

中満泉さん

(国連事務次長・軍縮問題担当上級代表)



日本人女性初の国連事務次長として、軍縮部門の最高責任者を務める。2017年に就任以来、毎年広島、長崎の平和記念式典に出席。今年1月に発効した核兵器禁止条約が2017年に国連で採択されたときの責任者。現在は同条約の第1回締約国会議の準備で多忙ななか、「平塚らいてうの会は核軍縮を会の基本的な目的の一つにしているのですから」と、つどいへのビデオメッセージを快諾。



米山淳子さん
 (新日本婦人の会会長、日本婦人団体連合会副会長)

1959年生まれ。日本女子大学大学院で社会学福祉、女性史を学び、学生運動から女性運動へ。らいてうが創立のよびかけ人となった新日本婦人の会は、核兵器廃絶、ジェンダー平等、国際連帯など草の根からの運動を積み上げ、2003年国連NGOに認証され、来年60周年を迎える。広島出身。

『らいてうの家』に集う



スタンドグラス越しの光の中で…

7月11日、久しぶりに「らいてうの家」に活気が戻ってきました。

米田館長を迎えて 今年度最初の「らいてう講座」が実施されたのです。コロナ禍という事で、全館窓を開け放ち聴講者人数を絞るなどして、できる限りの対策を施しての講座です。

演題は「新発見のらいてうに見るらいてう像」—没後50年の今、そのころざしを生かす—
らいてうさんの自筆の日記も拝見できるというので、聴講する我々も少し緊張気味に耳を澄ましておりました。スタンドグラスを背にした米田館長の話が始まりました。
少し後ろに席を取っていた私でしたが頬にあた

る涼やかな心地よい風の中で聴く話はいつも以上に心に響いてきたのです。ふと窓越しに庭を見れば目に飛び込む緑の林。風が吹き白樺の木も揺れてそこに雨が強くなったり弱くなったりしています。遠くから聞こえていた雷鳴もいつの間にからいてうの家の真上から大きな音を響かせます。そんな山の天気の中でも米田館長のお話は途切れることなくゆったりと進んでいくのでした。26名ほどの参加者も満足げに聞き入っていました。

そんな様子を眺めると妙に感動が湧きあがるのでした。「らいてうの家」で、行方からこその「何か」がある！

最後にらいてうさん自筆の日記帳を一瞬ではありましたが、手に取って拝見する機会を持たせていただけました。しかし手に触れた瞬間、個人情報報の最たるものである日記を赤の他人が触れてしまった事の戸惑いを感じました。しかしながら、日記を残されていたということは、ご自分の活動や想いを後世に繋げるという使命感をお持ちだったと解釈させて頂きました。ご家族のご理解、ご協力にも感謝を忘れてはなりません。

そして、その思いを私たちが預かっていることを再認識した1日であり「らいてうの家」の目に見えぬパワーを感じた1日でもありました。

(小林典子)



笑顔と花でお出迎え

最高裁判決をうけ

夫婦別姓にするために

今やるべきこと



弁護士
(ひめじやら法律事務所)
杉井静子

今年6月、最高裁は2015年の判決(前判決という)に続いて夫婦別姓を認めていない民法や戸籍法の制度は「合憲」との判断をしました。がっかりですが、15人の裁判官のうち4人の反対意見は多数意見の問題点を詳細に検討して今後の展望も見えてきました。

前判決の合憲性の論拠は

- ①氏に関する利益は人格権ではない、
- ②氏は家族の呼称である、
- ③改氏による不利益は通称使用で緩和される、というものでした。

そして今回の決定は前判決後の諸事情等を踏まえてもその判断を変更する必要があるというものでした。

反対意見は

- ①氏は名と切り離すべきでなく、氏名は憲法上の人格権であること、
- ②夫婦同氏は「家」制度に起因するが、

交差する——らいてう、

イサム・ノグチとその母

鎌倉・茅ヶ崎



イサムの母レオニー・ギルモア

『青鞥』発刊110年の今年、「イサム・ノグチ」発見の道」展が東京都美術館で開催され、彼の到達点とされる石彫を含む作品群は大きな感動を与えました。さらに、美術館という特権的な場で楽しまれるものを超えて、テクノロジの偏重によって失われる肉体と自然の調和や、地域の文化や過去の伝統を尊重するために「庭」から公園、大地の彫刻に至ったイサム・ノグチを知りました。

イサムのこの痛烈な近代批判の淵源の一つには彼の2才から13才までの11年間の日本体験があると思われまます。

イサムの母レオニー・ギルモアは、ニューヨークの貧困なアイルランド移民の家庭に生まれましたが、奨学金を得てプリンマー大学（男女同権の理念で創られた女子大学、3学年上に津田梅子が在学）を卒業、在米中の日本人ヨネ・ノグチの英詩の創作を手伝う中でイサムを私生児として出産しました。レオニーは、日系人排斥の強まるアメリカの現実に直面してイサムを「アメリカと比較にならない文化の伝統を持つ日

本でアーティストの道を進ませる」夢を抱いて、1907年に来日しました。

らいてうは「塩原事件」の後の騒動を避けて鎌倉円覚寺に家を借りて暮らしていましたが、自伝によると「そのころ、ちょうど詩人のヨネ・野口が同じ円覚寺境内に一人で住んでいて、散歩の時間を合わせたこともありました。食事を運ぶ小母さんから、アメリカ人の奥さんがたまに訪ねてみても長くはない（中略）」というような噂話も耳に入りました。」レオニーはイサムを連れて、ヨネの詩作の援助のために訪れていました。



イサムと母が共同設計した丸窓のある家

また、らいてうが茅ヶ崎に病後の夫博史と暮らしていた時期、同じ茅ヶ崎でイサムは母と共同設計した家で暮らし、丸窓からの夕暮れ時の富士山の眺めは「美へのもっとも鮮烈な最初の目覚めとなった。その時の感動が、体の一部のように生涯残った」といいます。

らいてうとイサム、共に近代を超えて人間の解放を願った二人の交差する時と空間の地続きに私たちは生きていると思われまます。

(三留弥生)

つどい(1面)の申し込み方法

締め切り：10月25日

(定員になり次第締め切ります。)

宛先：平塚らいてうの会

raichou@nifty.com

* ZOOM の使用についてのご質問にはお答えできません。

申し込みの際は、件名「つどい」とし下記の項目をお知らせください。

- ①名前
- ②住所（都道府県名）
- ③電話番号
- ④メールアドレス

家族の多様化が進んでいる今日、氏は夫婦・家族の識別に使われてない、という実態を指摘しています。

そして前判決以降の旧姓使用拡大で、国の機関での公的文書作成でも認められるようになったことから夫婦同氏の強制が社会的に通用しなくなっています。前判決後、国連の女性差別撤廃委員会から3度目の法改正の正式勧告をうけたということは、国会の立法裁量を超えているので違憲であると結論づけています。私たちは100年前事実婚を実践したらいてうの意志を引きつぐものとして来るべき総選挙でジェンダー平等を推進する議員を格段に増やして、選択的夫婦別姓を認める民法改正を実現させる！その決意を固めようではありませんか。

シリーズ「新婦人協会の人々」No.9



尹心徳（恵）

（ゆん・しむどく）

尹心徳は、新婦人協会に参加し、『女性同盟』にも執筆した唯一の朝鮮女性である。

尹は1897年平壤で生まれた。両親は熱心なキリスト教徒で、子どもたち4人にはすべて新しい教育を受けさせた。尹は女学校卒業後一年余り教師をしていたが、音楽の才能を開花させるため朝鮮総督府の奨学金をもらって、留学生として日本に渡った。

日本では青山女学院を経て、1918年東京音楽学校の音楽科に入学した。日本で暮らす男子学生らとも知り合い、朝鮮人労働者団体同友会などの運営費を集めるため、故国で巡回公演会などを行い、ここで恋人となる早大留学生の金祐鎮と出会った。金には親の定めた妻がおり、「家」制度の矛盾に悩んでいたと思われる。

1921年新婦人協会の学習会に参加し、『女性同盟』7号に「朝鮮の婦人について」を執筆した。「朝鮮のために：新しい教育を」そして「新

しい女によって」祖国の解放をと書いている。

1922年東京音楽学校を卒業し、翌年帰国。銅路中央青年会館で、朝鮮初のソプラノ歌手としてデビュー、豊かな美声で人々を魅了した。

金も卒業後帰国したが、文学と演劇の道に進みたい希望が「家」の反対にあり、1926年再び日本に渡った。尹も日本のレコード会社との契約と録音のため日本へ。8月1日、レコーディングが終わったのち、もう一曲と希望した録音が「ドナウ河のさざなみ」という曲に尹が詩をつけた「死の賛美」という曲だった。

8月4日、二人は一緒に帰国の途次、玄界灘に身を投じて、29年の短い生涯を終えた。彼女の遺書ともなった「死の賛美」は空前のヒットとなった。現在韓国ではドラマ化もされている。

* * *

平塚らいてうが、市川房枝を誘って1919年に始めた新婦人協会には、全国から多数の女性に参加、のみならず男性も、さらには外国の女性も参加している。会員名簿が残されていないので、正確に人数は把握できていないうえに、正会員、賛助会員、特別会員、維持会員などと分かれてお



ドメス出版発行

り非常に分かりにくい。かつて私たち、女性の歴史研究会で出版した『新婦人協会の人びと』では、女性512人、男性

234人、計746人としている。

しかし、そのほか表面にはでていない機関誌『女性同盟』の読者や協力者など、かなりいたのではないかと推測される。この「平塚らいてうの会ニュース」では、そのごく一部を紹介している。本号は外国の女性だが、このあと男性たちも紹介する予定でいる。

このニュースをお読みのみなさま、「むかし、うちの祖母が入っていたかもしれない」などという情報がありましたら、ぜひご一報ください。

（折井美耶子）

【事務局日誌】

7月8日 第1回常任理事会（オンライン併用）
7月20日 プラス・ワンとの打ち合わせ
8月31日 プラス・ワンとの打ち合わせ
9月9日 第3回理事会（オンライン併用）
* 8月14日～9月27日 新型コロナウイルス感染拡大により、らいてうの家は臨時休館しました。

▼会費、ご寄付などのご送金いつもありがとうございます、
ざいます。2021年度の会費未納の方は、
ご送金をよろしく願います。

● ゆうちょ銀行 郵便振替口座

00150-9-553046

NPO・平塚らいてうの会

● みずほ銀行新宿西口支店 普通預金

口座番号 4815505

特定非営利活動法人平塚らいてうの会